

第24回 越中康治さん（宮城教育大学）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第24回 越中康治さん（宮城教育大学）にご執筆いただきました。

若手ではなくなりつつある中で

博士課程在学中から今日に至るまで「私の専門は発達心理学で、社会性・道徳性の発達に関心を持っています」と自己紹介してきました。しかし、実際に取り組んでいる内容はこの10年でだいぶ変化しました。学生の頃は「幼児の道徳的な認知の発達」をテーマに幼稚園や保育園に通いつめて実験を行っていましたが、大学に勤めるようになってからは滞っており、最近は専ら保育者や教師を対象に安直な質問紙調査ばかりを行っています。

正直なところ、研究の行き詰まりや忙しさを言い訳に安易な方向に流れてしまっている部分が大きく、恥ずかしく思っています。その一方で、いろいろな先生方に出会ったり、自分が親になったりする中で、興味・関心が「大人は子どもの道徳性の発達や道徳教育をどのようにとらえているのか」というところに移ってきているのだとも感じています。

この夏は、小・中学校の先生方に「道徳の教科化」についてのアンケートを行いました。結果は「非常に好ましい・好ましい」が2割弱、「どちらとも言えない」が4割強、「非常に好ましくない・好ましくない」が約4割と意見が分かれました。先生方の認識の多様性についてもっと丁寧に調べたいと思いつつ、今は慣れない大人相手の調査に四苦八苦しています。こうした自分自身の変化（変節？）もまた発達かなと思っているところです。

越中康治さん（Koji ETCHU）

【ご所属】 宮城教育大学

【ご連絡先】 etchu@staff.miyakyo-u.ac.jp

【その他】 このたび執筆のお話をいただき、若手の会の参加資格を確認したところ「博士課程在学中、もしくはその修了時点から10年以内」が原則とあり、私は今年が最後の年であることに気づきました。若手ではなくなりつつある中で、今は「この先どうしていったものかなあ」としみじみ思っています。